

---

# 夢のうた

莎奈

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夢のうた

### 【Nコード】

N4836B

### 【作者名】

莎奈

### 【あらすじ】

初めての作品ですので誤字脱字があるかと思いますが気楽に楽しんで読んでいただけると嬉しいです。

## 始まり

私は今でも『貴方』の夢を見ます

甘い香りがするPeaceの煙草をくわえながら私に微笑んでくれる夢を

あたしは平岡 彩。関西で生まれ育った私は両親の思いつきで関東に引っ越してきた。そして今日から近くの高校に通う事になっている。

真新しい紺色の制服を着て鏡の前でにんまりしていると

「彩ー、行くでー」

一階から大きな声で呼ばれた

「はい」

私は必要そうな物を鞆に詰め込み階段を降りて行った

「彩、あんたそんなんで行くつもりなん？」

怪訝そうな顔で母が私を上から下まで見て言った。

「そんなんで別に普通やん」

私は玄関にある鏡を見た

髪は明るい茶色で何箇所かにメッシュが入っており耳には可愛らしいピアス、カッターシャツのボタンは何個か開いていてそこからシルバーのネックレスが見えている。そしてスカートの丈は短く切られていて、おまけにルーズソックスだ

「そんな目立つ格好してたら先輩に目つけられんで！！」

「大丈夫やって！今はこんなんが普通やねん」

「いきなり親呼び出しとかやめてや」

「そんな心配せんでもええて！！もうあたしも前みたいな事せんし！」

母は少し戸惑って弁解しようとしたが

「早く行かないいきなり遅刻やで！」

私は玄関を開けて車に乗り込んだ。そう、私は前に通っていた学校で先輩と喧嘩して相手に怪我を負わせたうえ、仲裁に入った先生を蹴飛ばし退学処分になった。

喧嘩の原因になったのが先輩は元々あたしの事が気にいらなかったのと、先輩の好きな人があたしのセフレだった事を知り、更にあたしの方が成績も良く、自分より人気がある事に腹を立てて突っ掛かってきたのだ。あたしからすれば知ったこっちゃない話でどうでもいい話。『女の嫉妬はめんどくさい』と、改めて思った出来事だった。

そんな事を思い出しながら車から見える景色をぼーっと眺めていた。

車が赤信号で止まっている時、ふと横断歩道を見た。少し制服を崩して着ていて髪はいかにも黒染めした感じの同い年ぐらいの男の子が携帯をいじりながら歩いていた。彩は何故かその少年から目が離せなかった。

（そついえば同い年の子と恋愛した事ないなあ）

彩は人並み以上の恋愛経験はあった。だが彼氏もセフレも恋愛対象

になるのも年上だった。年上の方が器量も経験もあるし、何より魅力的で自分を成長させてくれる。同じ年や年下にはそんな魅力は一切感じられないし、自分の方がある意味勝る気がして嫌だった。ふと我に帰りさっきの少年を見る。少年はおもむろに鞆をあさっている。

(忘れ物でもしたんかな?)

少年が『ある物』を探している間に信号が青になり、彩はその『ある物』を見る事が出来ずにその場を後にした。

学校に着くと通学してきて自分のクラスに入って行く学生達を横目に彩は母と職員室に向かった。

- ガラガラ -

「失礼します」

母はキョロキョロと見回し誰かを見つけたみたいでその人物に向かって歩いて行ったので私もその後に着いて行った。

「あっ、どーもおはようございます」

「おはようございます。今日から娘がお世話になります。」

どうやらこの人が担任の教師らしい。40代後半ぐらいで髪は白髪混じり。座っただけでも背が高いのがわかる。

## 担任

「平岡彩です。今日からよろしくお願いします」

私は今日から担任となる先生に挨拶した。

「谷原です。今日からよろしくな！」

我が子を見るように微笑む谷原を見て彩は少し安心した。前の学校の担任は彩の事をクラスの問題児としか見ておらず愛想も糞もないロボットのような人柄だった為に谷原の微笑ましい顔を見て嬉しかったのだ。

「ほな、私はこれで。よろしくお願いします」

母は時計をちらっと見てそそくさと職員室を後にした。

母が去り私はどうしたらいいのか迷っていると調度予鈴らしきチャイムがなった。

「平岡さん、少し廊下で待っていてくれないか？」

「わかりました」

彩は母と同じように廊下を出た。

廊下に出るとさっきまで通学してきていた生徒たちはもういなかった。

(皆教室に入ったんやろな。うち何組なんやろ?)

彩がこれからの学校生活の事を考えていると谷原が職員室から出てきた。

「お待たせ。行こうか」

彩は谷原の後に着いて行った。

この学校は4階建てで1階に職員室や学食、2階に3年生の教室、3階に2年生の教室、4階に1年生の教室があり、各階に特別教室があるらしい。エレベーターがついているのだがそれは重い資材を運んだりする時以外は使用禁止なのだと言われてくれた。

(どうせ皆使ってる！)

彩がそんな事を考えていると一つの教室の前で谷原が止まった。

「ここが今日からお前のクラスの2年4組だ」

私は紹介された教室を見た。中には友達と騒いでいる子やお喋りしている子、自分の席に座り本を読んでいる子、一生懸命宿題を写している子がいた。

(普通のクラスやな)

それが第一印象。そして谷原は中に入って行ったので彩も続いて入った。

## 2年4組

「皆席につけー。杉本、宿題は家でやるもんだぞ」

谷原が少し大きめの声を出すと皆自分の席に戻り教壇の谷原を見る。そして私にも気付いたのか口々に

「転入生？」

と言ってるのが分かった。

「静かにー。皆も分かったも思うが今日からクラスの仲間に入る子だ。平岡、簡単に自己紹介してくれ」

谷原は自分が立っていた教壇に立つように促した。彩は教壇に立ちクラスを見回した。

「えっと、平岡彩です。関西からこっちに引っ越して来ました。今日からよろしくお願いしますっ！」

彩は少し頭を下げた。

「じゃあ平岡の席は」

「先生！今日は席替えの日だしそれで決めようよ」

一人の男子が言った

「そうだな。じゃあー、柗は遅刻みたいだしとりあえずここに座っててくれ」

私は一列目のはしっこの柗と言う人の席に座った。

「柗以外遅刻も欠席もないな。じゃあ席替えするからくじ引いてけー。平岡、1番に引くか？」

谷原は彩の前にくじの箱を置いた。私はくじを1枚引いた。くじを開けると『E - b』と書かれていた。

「大文字のアルファベットは前から何列目かで小文字のアルファベットは右から何列目かだよ」

隣の女の子がそう言って私のくじを見た。

「いい場所引いたね」

彼女はにっこり笑って自分のくじを引き次の人に渡して行った。そ

して皆自分の荷物を持ちくじに書いてある席に移動した。

「皆移動したなー？空いてる所が柵だな。それと平岡に……」

・ピンポンパンポーン・

「谷原先生、谷原先生。至急職員室までお願いします」

・ピンポンパンポーン・

「皆、少し自習しとけー。教室からは出るなよー」

谷原は教室から出て行った。

## 友達

谷原が校内アナウンスで呼ばれた為教室を出て行くとそれと同時に教室内は騒がしくなった。新しい自分の席の隣の子としゃべっているのだろう。

「おはよう！私、藤原美紅。よろしくネ！」

私の左側の席の子が話かけてきた。髪は私より明るく派手目の化粧で香水の甘い香りがふわっとした。

「よろしく！」

私は笑顔で返した。

「関西から来たんだあ？関西のどこだったの？」

「滋賀やで。めっちゃマイナーやけど」

「マイナーじゃないよ！滋賀県って琵琶湖でしょ！？見てみたーい」

「実際、綺麗な所もあるけど汚い所は汚いで！笑」

「そーなんだ！？平岡さんめっちゃ関西弁だねー。なんか新鮮」

「彩でえーよ！うちは標準語がなんか痒いわ！笑」

「あははっ！だよねー！あたしも美紅でいいからねっ」

「うん！」

彩と美紅が話していると

「ねえあたしも入れて」

彩の右隣の席の子が話し掛けてきた。

「全然えーし！」

「私、三好奈緒。よろしくね」

「よろしくっ！」

奈緒は髪は黒なのだが何箇所かに赤のメッシュが入っていた。それがすごく雰囲気合っており化粧もナチュラルメイクで清楚的な感じだった。

（すぐに友達出来てよかった）

彩はそう思った。向こうに友達はいっぱいたけれどこっちは誰

もない。だからすぐに出来るか心配だったからだ。改めて新しい  
場所で友達を作るとなると照れやら恥ずかしいやらがあると思っ  
ていた。だがそんな事がなかったのは彩の性格のせいだろう

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4836b/>

---

夢のうた

2010年10月28日05時25分発行